

## 解 説



# 品質工学会の初期

## —初代副会長 馬場幾郎先生のこと—

### *Early Stage of Quality Engineering Society —About the First Vice-president Mr. Ikuro Baba—*

矢野 耕也\*

Koya Yano

#### 1. はじめに

品質工学会は昨年9月に一般社団法人化をし、今年で25周年を迎える。1993年に創立した時は学会を名乗っておらず、「品質工学フォーラム」という名称であったが、後の名誉会長になる田口玄一が、学会でなくフォーラムの方が良いということでフォーラムとして始まったといわれている。また設立にあたっていろいろと準備をした中に初代の副会長任期は(1993~1998)である馬場幾郎氏がいたが、今回は彼に焦点を当ててみたいと思う。というのも、氏はまだ品質工学が実験計画法といった時代からの経歴を持つことから、筆者よりも活動ぶりを良く知っている人は多数いるはずであるが、逆に最近の会員は名前さえ知らない方も多いと思われるからである。なお本解説は、筆者が研究発表大会の実行委員として、第1回~第4回まで品質工学研究発表大会実行委員長であった馬場に2年ほど世話になった際の、見聞きした会話などの伝聞を基にしているが、学会設立25周年ということで、タグチメソッドの発展に伴走してきた重鎮ということでその人となりきをきわめて個人的な視点で記させて頂く点をご容赦願いたい。正確なことをさらに詳しくご存知の方も多いと思うが、追悼文に関しては、会誌の2001年4月号に記事があるのでそちらを参照してほしい。

#### 2. 人となり

馬場幾郎は田口玄一と同年であると聞かされていたが、田口の生誕日が元旦(1924年1月1日)となっているため、もしかしたら1923年生まれかも知れない。1954年に沖電気工業に入社し、1972年に同社品質管理課長を最後に退社して馬場技術士事務所を立ち上げ、その後は日本規格協会のセミナー講師や企業指導を続けながら学会設立時には副会長に就任し、研究発表大会実行委員長を務めるというように、国内外を問わず広く活躍したが、2000年2月2日逝去というのが氏のプロフィールである。

筆者が最初に出会ったのは大会実行委員会の場で、大正世代の男性にしてはかなり背が大きい方で、また通りの良い大きな声の特徴で、早口で小声気味の田口とはずいぶん違うものだと感じたことがあるが、決して居丈高でなく、年齢の差に関係なく接して頂けた。この点は田口も同じで、役職などに関係なく接してくれた点は驚きであった。余談だが、馬場が対談で語っていたものに、デミング賞を受賞した頃の田口に触れており、「そばに寄れないほど切れる先生でした。…中略…一介のサラリーマンの我々ではそばに寄せませんよ」と述べているから<sup>1)</sup>、その雰囲気は後年となっては想像がつかないものである。

氏の経歴は詳らかではないが、戦時中は陸軍にいたとか軍令部にいたと当人から聞かされたことがある。あまりに古い話なので聞き流していたが、軍令部であれば田口と同じく海軍になる。いずれにしろ、

\* 日本大学